

川内原子力 環境放射線・温排水影響調査結果

県では、川内原子力発電所の運転による影響を調べるため、発電所の試運転開始前から、周辺地域の空間放射線量や、周辺で採取した野菜・水等に含まれる放射性物質の測定、温排水の影響を調査しています。

空間放射線量の測定

(令和8年1月～3月)

モニタリングポスト(42局*)の空間放射線量と、発電所の放水口ポスト(1局)における海水中の放射線量を、テレメータシステムを用いて常時監視しています。また、発電所周辺の48地点において、3か月間の積算線量の測定を行っています。

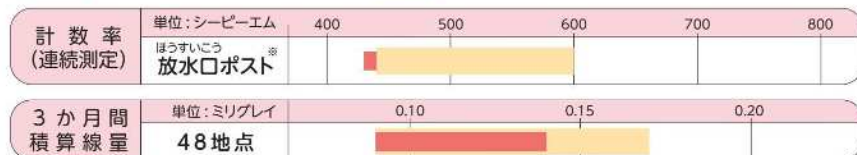
*県はその他、緊急時に備えた電子式線量計を64地点に設置しています。

調査機関：鹿児島県環境放射線監視センター、九州電力株式会社川内原子力発電所



測定結果が、これまでの測定値の範囲内にあるか確認しています。これまでの測定値の範囲から外れていた場合は、「なぜそのような結果になったのか」、「機械の故障や測定ミスではないか」などを調べます。その調査結果を、専門家にチェックしてもらい、問題がないことを確認してから、そのデータを正式な測定結果として公表しています。

今回の調査結果は、これまでの調査結果と比較し、異常は認められませんでした。



*放水口ポストがこれまでの測定値を下回った理由
放水口ポストの周辺に付着したフジツボや貝の除去作業を冬場に実施した結果、低水温のため貝の再付着や成長が遅れたことにより、貝類に含まれる自然由来の放射性物質(カリウム40)の影響が一時的に小さくなり、測定値が低下しました。

空間放射線量の測定地点、測定結果については、リアルタイムで県のホームページで公表しています。



鹿児島県 環境放射線テレメータ 検索

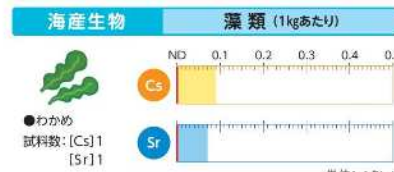
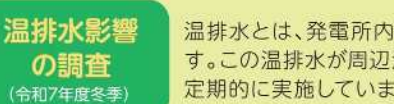
環境試料の放射能分析

(令和8年1月～3月)

人工の放射性物質であり、環境における蓄積や被ばくの観点から重要なセシウム137、コバルト60、ストロンチウム90、ヨウ素131等について分析しています。今回は海洋試料7試料、陸上試料33試料、合計40試料を対象としています。

調査機関：鹿児島県環境放射線監視センター、九州電力株式会社川内原子力発電所

今回の調査結果は、これまでと同様、過去に実施された大気圏内核実験等による影響と考えられる、ごく微量のセシウム137、ストロンチウム90が検出されていますが、異常は認められませんでした。



温排水影響の調査

(令和7年度冬季)

温排水とは、発電所内で蒸気の冷却に使用した後に排出される海水のことです。この温排水が周辺海域に与える影響を把握するために、温排水影響調査を定期的に行っています。

マダイ・チダイの漁獲量が例年に比べ、少なくなりましたが、水温・塩分・流況は過去の変動の範囲内でした。

水温計を船でひきながら、水深別に水平分布を調査しました。また、海面から海底までの鉛直分布も調査しました(令和8年3月2日)。

海中に流速計を設置し、潮流の向きや速さを調査しました(令和8年2月16日～3月3日)。

周辺海域におけるイワシ類(シラス)やマダイ・チダイの漁獲量を調査しました(令和7年1月～12月)。

*本調査は電源立地地域対策交付金にて実施しています。

調査機関：鹿児島県水産技術開発センター、九州電力株式会社川内原子力発電所



今回の調査結果については、県のホームページに掲載しています。

鹿児島県 環境放射線・温排水影響調査結果 検索